

【報告】 外国にルーツのある子どもたちの教育の現状と課題

～保護者支援の必要性と実態～

(調査・研究委員会委員、神奈川支部会員 石塚浩美)

- ・2021年9月5日(日)13:30～15:30 調査・研究委員会主催の2021年度第2回オンライン勉強会に参加しました。講師は菊池寛子さん(西尾市教育委員会・日本語教育指導アドバイザー、日本語初期指導教室カラフル室長)でした。解説は約1時間で、質疑応答が約1時間でした。
- ・調査・研究委員会も、色々な自治体について調査を実施してきたので、菊池さんの提示が、愛知県・西尾市の小学生と中学生の日本語教育担当ということで、西尾市のみについての具体的な内容の発表で、親近感があつたようである。

○菊池さん在住の西尾市での実施について：

- ・菊池さんは、日本の大学でポルトガル語を学び、ポルトガル語が言語のブラジルの大学にも1年間留学して、その後に日本の大学で日本語教育を学んだということである。関西での居住が長かったが、愛知県教育委員会でポルトガル語を生かすことができ、外国人児童生徒に関わることができる仕事で、しかも月給である仕事があると知り、応募した。3年の任期が終わるころ、巡回していた幾つかの市の一つであった西尾市から声をかけてくれたので、2009年から西尾市に移って小学生と中学生担当で、実施しているということである。

○愛知県・西尾市について：

- ・西尾市は、愛知県の西三河南部の中核的都市であり、西尾市の人口は171,134人で、その内で外国人市民数は10,013人である(2021年9月)。また、西尾市の総児童生徒数は15,025人で、その内で日本語指導が必要な児童生徒数は645人ということである(2021年5月)。更に出身国や言語の内訳の提示があり、ブラジルからでポルトガル語の児童が49%、フィリピンからでタガログ語の児童が17%、ベトナムからでベトナム語の児童が15%、ペルー等からでスペイン語の児童が7%、インドネシアからでインドネシア語の児童が5%、中国からで中国語の児童が3%、その他も4%ということである。

○西尾市の外国人への4つの支援体制について：

- ・1：小学校に入学1年前の子ども達「プレスクール」と保護者を対象は『KIBOU』。
- ・2：外国から来て日本の学校に入学した子ども達「プレクラス」を対象は『カラフル』。
- ・3：小・中学校、西尾市の隣町にあるブラジル人対象の学校、どの学校にも行っていない不就学の子ども達対象で調査をして就学支援をする「不就学支援」は『KIBOU』。
- ・4：外国にルーツのある人達だけでなく西尾市市民全体の15歳から39歳の引き籠り不登校の子どもや若者対象の「子ども・弱者総合の相談センター」は『コンパス』。

○西尾市の多言語による就学説明会について：

- ・2021年8月28日にオンラインで、小・中学校にまだ通っていない人を対象に実施したら、申し込みが47家庭で、参加は29家庭であった、ということである。言語と申し込み家庭の内訳は、ポルトガル語が20家庭、ベトナム語が13家庭、タガログ語が6家庭、インドネシア語が4家庭、スペイン語が2家庭、中国語が1家庭であった。当日は、30分毎に各言語で実施して、更に、『KIBOU』のYouTubeを活用しながら説明したということであった。

○西尾市で外国にルーツを持つ子ども達が高校進学するための説明会：

- ・まず中学卒業後の進路について概要を教育委員会が行い、その後市内の主たる高校の紹介を高校の先生がして、特に先輩である高校生の2人が話を提示して進路説明会を実施した(2021年8月7日)。
- ・既述の6言語で通訳もした。
- ・高校進学に関する概要説明で、74人の親子が参加した。
- ・高校の先生が外国人保護者のための説明会で直接説明してくれたのは、昨年から企画で、中学では進路説明会もある。西尾市教育委員会主催の外国人保護者のための進路説明会は10年以上前から行っている。
- ・高校生の話は、頑張って今、高校生(3年生と1年生)になった先輩2名の男子生徒がおこなった、とのことである。特に動画が提示されたのは、このうちの1人でベトナムからの高校生で、非常に上手な日本語で長時間話していて、皆に負けたくないと言って名古屋大学に行きたいということ等であった。

○西尾市の市役所ホームページでの『カラフル』：

- ・学校の言葉として、多言語でコピペをして配れるようにしているとのことである。
- ・更に、『カラフル』のYou Tubeの動画では、新型コロナウイルスについての情報が、多数の在住外国人によって提示されているとのことである。

○特に菊池さんの解説の最後の数分で、西尾市の外国からの生徒が頑張っている様子が、2つの動画により提示された。

- ・小学校の案内として、学校内部の詳細の提示、各場所での行動内容の提示。
- ・新型コロナウイルスが怖いとの理由で自宅学習をしている子どもの動画の提示。

○講演後に、活発な質疑応答がなされた。

- ・「コンパス」の事業内容の詳細、各国からの来日理由や日本での資格、家庭の父母の対応の違い、配付する副教材の費用、子どもたちの進路、日本語としての教え方の詳細など、多数の聴講者からの質問について、菊池さんは全て詳細の回答で、有意義であった。
- ・また、文化庁が実施している地域日本語教育コーディネーター研修受講の状況などについても、

詳細な説明での回答であった。

- ・非常に多くの取組みがなされている西尾市における多くの具体的な事例が紹介され、他の自治体への提言を行う際にも大いに役立つものであった。

以上